

座右の銘 C'est la vie

菅野 雅元

医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 医学講座 免疫学 教授



編集者から、「座右の銘は？」と聞かれて、浮かんだのが上記の言葉です。特に「座右の銘」を決めている訳ではないが、今までの研究者人生は、「七転八起」というよりは「七転八倒（七顛八倒）」で、多くの師匠、先輩から受けた言葉の中でも、自分にじっくり来る言葉の一つです。（今までに受けた様々な言葉に関しては、どこかで話す機会があれば、と思っています。）

(1) 突然、自分の研究分野が消滅した事件。(2) 競争相手の論文との discrepancy が解消できずに、半年以上時間を費やしたが、結局、相手が使用したプラスミドの塩基配列が間違っていた事件。しかし、相手の論文撤回・謝罪なし。

(3) 自分たちが発見した遺伝子と、雑誌Cellに載っていた、異なる研究分野から報告されたcDNAの塩基配列が酷似していることを見つけ、新しい遺伝子ファミリーの存在を解析・報告し、CellのEditorに連絡・投稿した。ところが、既に他人が、データベース上で見つけて、たった1ページのLetterを書いてCellに投稿・受理済みであった。我々の論文の方が断然良いが、間に合わず掲載できない、申し訳ないとEditorから謝りの電話があった事件。 など、色々ありましたが、その度に落ち込んで研究人生はやっていけません。どんな事が起きても、「これが人生さ」と言って受け止める、楽観的な・達観した気持ちをフランスの留学先のボスから教わりました。

研究科の活動

研究科附属死因究明教育研究センター看板除幕式

安井 弥

医歯薬保健学研究科附属死因究明教育研究センター長
医歯薬学専攻 医学講座 分子病理学 教授

広島大学大学院医歯薬保健学研究科附属死因究明教育研究センターの本格稼働に伴い、本年6月6日、看板除幕式が開催されました。除幕式には、越智光夫学長、死因究明教育研究センター長、粟井和夫医歯薬保健学研究科副研究科長、武田直也広島県健康福祉局医療・がん対策部長、広島県医師会担当理事らが出席しました。センターは、国および地域からの社会的要請を受け、中国・四国地方における死因究明学教育・研究の拠点化を目指し平成29年度に設置されました（概要は本誌第12号にて紹介済み）。このたび死後画像診断装置をはじめ専門設備の整備が完了し、本格稼働に至りました。

式の冒頭で越智学長は「関連機関と連携をとり、当センターの機能を果たし、世界や地域社会で活躍できる人材が育ってほしい」と挨拶されました。続いてセンター長の安井から、死因究明の専門家や関連医療人の育成、死後画像診断学における法医学的・病理学的基盤の確立、身元確認等の歯科医学的研究の推進等を通じてわが国の新たな『死因究明システム』の開発を目指す旨の抱負を述べました。除幕式終了後には、当センターの施設公開が行われ、副センター長の長尾正崇教授、粟井和夫教授らから、死後画像診断用CT装置、解剖装置、歯科用ポータブルX線診断装置等、最先端設備の説明がなされました。これらの様子は当日夕刻のNHKお好みワイドひろしまで7分にわたって紹介された他、多くのテレビ、新聞で報道され、関心の高さがうかがわれました。

